

# 親潮

第316号  
令和2年度 第2号

OYASHIO

北水同窓会誌

2020

316

No.2

北水同窓会のEメールアドレスが変更になりました | ホームページをリニューアルしました  
hokusuialumni@gmail.com | <http://hokusui.net>



特集 北水の今

## 水産科学研究院と八雲町との連携協定を締結

次回総会について  インタビュー  院生からのメッセージ  支部・クラス会報告 ほか

# 親潮

第 316 号  
令和 2 年度 第 2 号  
OYASHIO

## CONTENTS

次回総会の延期に伴う対応について	3
北水同窓会次回総会に関する対応方法について	4

### 特集 北水の今

水産科学研究所と八雲町との 連携協定を締結	6
--------------------------	---

コロナ禍における北水同窓会の活動・同窓生への 激励の言葉	11
---------------------------------	----

コロナ禍を卒業する院生からのメッセージ	12
---------------------	----

書評	15
----	----

宮澤 晴彦(昭53年) / 山口 篤(平6卒)

支部会・クラス会報告	18
------------	----

北水同窓会大阪府支部総会報告

学位取得者	20
-------	----

会員の異動	20
-------	----

会員の死亡通知	21
---------	----

親潮投稿規定・編集後記	22
-------------	----

### 親潮316 表紙写真の説明

左 : 水産学部の東屋厚生会館側の大山桜  
中央: 図書館と東屋の間の関山  
右 : 東屋奥の染井吉野

# 次回総会の延期に伴う対応 について

北水同窓会・会員の皆様、お元気でお過ごしでしょうか。

既に、ホームページでお知らせしましたように、今年の総会も、残念ながら延期させて頂くことになりました。コロナ禍のためとはいえ、本当に申し訳なく思います。第100回記念総会は、来年7月に函館で、うしお丸新造に合わせて対面形式で実施したいと考えております。また、9月に実施予定のホームカミングデーでは、「100回記念総会に関する意見交換会」を実施する予定です。これらの集いにおいて、また会員の皆様と交流できますことを、幹事一同、心より願っております。

さて、ここでは今年の総会が延期になったことに伴う、今年度の活動に関する諸決議案の取り扱い方法について、改めて簡単に説明させていただきます。なお、ホームページに掲載した通知文書を、本誌においても再掲しておりますので、そちらも併せてご覧頂ければ幸いです。

1. まず、会員の皆様には、本会ホームページに掲載されている決議案をご覧頂きたいと思います。
2. そのうえで、これに対するご意見等を、5月14日(金)までに、本会事務局宛に郵便またはメールでお寄せ下さい。  
(事務局の住所・メールアドレスは本誌末尾に掲載)
3. 寄せられたご意見を幹事会で集約・整理し、それを最終決議案とします。
4. この最終決議案については、賛否を問う書面審査を郵送方式で実施します。
5. 書面審査を行ってもらう対象者の範囲は、函館在住(近郊含む)の学外理事と全国の地方理事とします。
6. 書面審査を経て決定された決議案の内容については、9月発行の『親潮』次号に掲載し、会員の皆様にお知らせ致します。

以上が、決議案の取り扱いに関する一連の流れであります。会員の皆様、及び書面審査を行って頂く学外理事、地方理事の皆様には、こうした対応につきましてご理解とご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

2021年3月

北水同窓会幹事長 宮澤晴彦

〈ホームページに掲載している通知文書〉

北水同窓会会員の皆様へ

---

## 北水同窓会次回総会に関する対応方法 について

---

まだまだ寒い日が続いておりますが、北水同窓会・会員の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。また、本会の活動につきましては、日頃より種々ご協力を賜り、改めて厚く御礼申し上げます。

さて、本会幹事会におきましては、9月以降、次回総会（通常2021年5月に実施予定）の開催方法について種々検討を重ねて参りました。そうした中で、ご承知のようにコロナ禍の第三波がより大きな波として到来し、緊急事態宣言が発出される状況となっております。最近、函館市及びその周辺地域でもかなり多くの感染者が報告されており、これまで感染者ゼロを維持してきた本学部においても、感染が“飛び火”するのではないかと不安が広がりつつあります。もちろん、現時点で今後の動向を正確に予測することはできませんが、新型コロナウイルス感染症のリスクは依然として高く、今後も予断を許さない状況にあるといわざるを得ません。

そこで、幹事会では次回総会についても、例年通りの対面実施は困難と判断し、下記のように対応することが妥当ではないかとの結論に至りました。コロナ禍の影響によるものとはいえ、2年続けて総会を開催できないことにつきましては、幹事会としても大変残念で、会員の皆様に対して誠に心苦しく思う次第ではありますが、以下、次回総会に関する対応方法について、幹事会の検討結果を箇条書きで記します。

- 1) 次回総会（通常2021年5月に実施予定）は開催せず、延期とする。
- 2) 来年（2022年）の総会を第100回記念総会として、新うしお丸竣工に合わせて7月に函館で、水産学部との協力体制の下に対面形式により実施する。
- 3) 記念事業（記念品の作成・配布等）も次々回の総会時に合わせて実施する。
- 4) 次回総会（通常2021年5月に実施予定）は開催しないが、今期本会活動の総括と次期活動方針、及び決算・予算等に関する決議案については会員諸氏から意見を募り、以下のような段取りで書面審査を行って決定する。
  - ① 学内役員会を2021年3月（19日を予定）に対面で実施し、決議案について検討する。
  - ② 学内役員会で決定した決議案を同窓会ホームページに掲載し、1カ月間程度の

期間を置いて会員から意見を募る。

- ③その後(2021年4月下旬)、会員から寄せられた意見に基づき、幹事会は必要な修正を加えた最終決議案を策定する。
  - ④最終決議案について賛否を問う書面審査を郵送方式で実施する。
  - ⑤書面審査を行ってもらおう対象者の範囲は、函館在住(近郊含む)の学外理事と全国の地方理事とする。
- 5) これら一連の流れについては、本会ホームページ及び3月下旬発送の『親潮』に掲載し、周知徹底を図る。
  - 6) 書面審査を通じて決定された内容については、9月発行予定の『親潮』に掲載し、会員に通知する。

以上のような対応方法につきましては、昨年末、横山会長にお伝えし、基本的にご了解を得ております。また、3名の副会長様からも承諾を頂いております。ただし横山会長は、2年連続で総会が開催されないということで、「同窓会に対する会員の関心が薄れてしまうのではないか」、といったご懸念も示されておりました。

そこで、幹事会ではこの会長のご指摘について検討し、9月に実施予定のホームカミングデイ(以下、HCD)において「100回記念総会に関する意見交換会」を実施し、会員の皆様とともに100回記念総会を準備していきたいと考えました。HCDは同窓生が母校に集い、在学生を交えて相互の交流を図るという取り組みであり、毎年9月の最終土曜日に本学・札幌キャンパスにおいて開催されています。例年、HCDでは記念講演会と懇親会が催されますが、今年は記念講演会の終了後にこの意見交換会を行いたいと思っております。

もちろん、現段階でHCDの開催が決まっているわけではなく、コロナ禍の状況如何によっては昨年同様中止になることもあり得ます(開催の可否は北大全体で決定)。しかし、開催の運びとなりましたら、是非ともこの意見交換会を実施し、100回記念総会成功に向けて、会員の皆様と交流を深めていきたいと存じます。

以上、長々と述べてまいりましたが、このような北水同窓会次回総会に関する対応方針につきまして、会員の皆様にもご理解・ご協力を賜りたく、本書面を持ちましてお願い申し上げる次第であります。なお、ご質問、ご意見等ございましたら、本会事務局あてお伝えくださいますようお願い致します。また、3月下旬にはこのホームページに決議案を掲載しますので、ご覧の上、ご意見等をお寄せください。

末筆になりましたが、会員各位のご健勝を心より祈念致します。

北水同窓会幹事長 宮澤晴彦

## 水産科学研究院と八雲町との連携協定を締結

浦 和寛(平3ゾ)

北海道大学大学院水産科学研究院は、北海道道南に位置する八雲町との連携のもと、学術・教育・文化及び地域振興に関する各分野において協力し、相互の発展充実を目的とした連携協定を平成31年1月22日(火)に締結しました。

### 八雲町・北海道大学大学院水産科学研究院 連携協定締結式



当日は、八雲町熊石の海洋深層水総合交流施設で協定調印式が行われ、木村 暢夫研究院長と岩村 克詔八雲町長が協定書に署名しました。

八雲町は日本で唯一「太平洋」と「日本海」の両方に接する町で、日本海側の熊石には海洋深層水を取水する設備もあるなど、水産研究に適した環境が揃っているほか、函館と札幌の間に位置し、交通の便も良いなど立地面でも優れています。本研究院では、平成29年から八雲町での研究実施のための交渉を進めてきましたが、海洋深層水の有効活用を図っていた八雲町と双方の利益が一致したことから、今回の協定締結に至りました。

協定締結に併せて「八雲町水産試験研究施設」が建設され、施設には大小計18台の水槽が設けら

れており、海洋深層水を直接取り込むことが可能です。また表層海水も取り込むことが可能で、「ダルス」などの海藻、ウニの成育改良や近海魚の飼育など、海洋深層水を活用した水産研究に取り組んでいます。

海藻グループでは、有用成分の含有量が多く、安全で高機能な紅藻ダルスの周年栽培を目指して、安定して低温であり、栄養塩を豊富に含有し、清浄である海洋深層水を利用し、海水温変動や悪天候などの海洋環境に影響を受けない陸上施設におけるダルスの栽培試験を実施しています。

魚類グループでは、以下のような研究開発を実施しています。クロソイ、キツネメバル(通称マゾイ)、エゾメバルなどの北方性メバル属魚類は北海道沿



岸での漁獲が多く、古くから道民に親しまれてきた食材であり、観光資源としての需要も多いことから、種苗放流による資源量の増大や養殖技術の確立が図られてきました。放流事業では、栽培水産試験場と共同で人工授精技術の効率化を進め、放流用種苗の効率的な生産法がほぼ確立されています。一方、養殖事業では、養殖向けの形質（高成長など）を持つ種苗の育種はされていません。一般に育種は膨大な時間・手間を必要としますが、一方で雑種強勢における有用形質の獲得は一代目から即効性を示すことが期待されます。そこで本グループで



は、高成長なクロソイと高価値なキツネメバルの種間雑種を作出し、その成長や肉質、性成熟等の知見を得るための試験を実施しています。この他、サーモン養殖に必要な技術指導を行っています。

海産無脊椎動物グループでは、磯焼け海域に生息する未利用なウニを商品化するための研究開発を実施しています。特にウニが市場に流通せず高額で取引される端境期（秋～冬）にウニを出荷することを目的とし養殖技術開発を実施しています。本グループでは、これまでにウニ用配合飼料を開発しており、配合飼料の改良開発および低コストウニ養殖



技術開発を目指し八雲町水産試験研究施設を利用し試験を行っています。

研究開発の他、年に2回の水産研究施設運営協議会が開催され、八雲町水産業の振興を目指した研究開発成果の意見交換を行い、養殖技術開発が進んでいる内容は、実際に水産現場での養殖実証試験にまで発展しています。例えば、サーモン養殖においては、水産科学院の教員の指導のもと漁業者が実際に養殖し「二海サーモン」と命名したご当地サーモンを出荷する取り組みにまで発展しています。

また、教員や学生による現地での実習・研修なども計画しており、教育・研究の場としての活用することで、今後ますますの教育・研究及び地域貢献の推進が期待されています。



# 北海道大学 校友会 エルム

北海道大学 関係者の皆様のご登録をお待ちしております

※平成28年6月1日以前に基礎同窓会に加入されている方は会費不要です。



北海道大学関係者みなさんが  
ご入会いただけます。

📄 会員登録は以下URLからフォームにアクセス



<http://www.alumni-hokudai.jp/>

会員登録

をクリック!



会員登録が簡単になりました!

「お名前」「メールアドレス」「電話番号」  
「入学 or 卒業 or 所属情報」のみでOK

郵送でのお申し込みをご希望の方は事務局までご連絡ください

北大との絆をつなぐ一枚



UCカード株式会社  
北海道大学カード



三井住友カード株式会社  
北海道大学カード

申込み

UCカード専用ページから申込み

UCカードサイト

新しくカードを作る

UCカード一覧

北海道大学カード

[https://www2.uccard.co.jp/  
card/lineup/hokudai.html](https://www2.uccard.co.jp/card/lineup/hokudai.html)



三井住友専用ページから申込み

三井住友カードサイト

カードをつくる

カード一覧

北海道大学カード

[https://www.smbc-card.com/  
nyukai/affiliate/hokudai/index.jsp](https://www.smbc-card.com/nyukai/affiliate/hokudai/index.jsp)



北大事務局  
から申込み

専用申し込み用紙を送付いたしますので、下記宛にお名前・ご住所をお知らせください。  
カードは、お申し込みから約1ヶ月後に、カード会社からご自宅にお届けします。

北海道大学カードが北大生を支援する仕組み  
北海道大学カードへの入会による取次手数料及びカード利用額に応じた提携手数料がカード発行元の北海道大学校友会エルムに還元され、これを「北大生支援資金」として北海道大学に寄附し、「奨学金」、「留学支援金」、「課外活動への費用援助」等に役立ててもらおうこととしています。

## 北海道大学カード

本学卒業生、教職員又は<sup>※</sup>在学生父母の方限定

※UCカードのみ



お問い合わせ先

北海道大学校友会エルム  
電話：011-706-2101  
[kouyukai@general.hokudai.ac.jp](mailto:kouyukai@general.hokudai.ac.jp)



北海道大学校友会エルム  
HOKKAIDO UNIVERSITY  
ALUMNI ASSOCIATION ELM

卒業生の皆様へ

# 「北大みらい投資プログラム」へのご協力をお願い

このたび北海道大学では、より実践的なリーダーシップ教育を実施するため、  
また研究者が世界に誇れる先端的研究を行う環境を整えるため、  
北大フロンティア基金の中に「北大みらい投資プログラム」を創設しました。

皆様からのご寄附は、苦学生の修学、海外留学、特定の研究、部活・サークル活動など、皆様のご指定される用途に使用いたします。  
後輩学生へのサポートとして、卒業生の皆様からのあたたかいご支援をいただきたく、心よりお願い申し上げます。



## 4つのプログラムメニュー

4つのメニューから、サポートしたい取り組みを指定してご寄附いただけます。



### 給付型奨学金

北大への進学や修学継続への意志が明確であるにもかかわらず、経済的理由により進学等を躊躇している学生に対し、返還の必要のない「給付型奨学金」を交付し、進学等をサポートします。

- 進学サポート奨学金
- 修学継続サポート奨学金



### 海外留学・インターンシップ等資金

明確な目標を持った優秀な学生の海外留学、研修の渡航費用等をサポートし、グローバル人材を育成します。

- 海外協定校等派遣・海外語学研修への支援
- 短期留学・研修・国際インターンシップへの支援 等



### 課外活動等支援資金

部活動・サークル活動や全学生が使用できる施設の整備など、課外活動の充実を図ります。

- 運動部・文化系サークル支援(個別指定可能)
- サークル会館、体育館、グラウンド整備への支援 等



### 用途指定資金

特定の学部や研究分野など、本学が実施する活動の中から、寄附者自身が用途を特定できるプログラムです。

- 特定の学部等への支援
- 特定の研究分野への支援 等

## 寄附方法



PCから

北大フロンティア基金HPにアクセスして下さい。  
<https://www.hokudai.ac.jp/fund/mirai.html>

北大みらい投資 |

検索



スマホから



振込用紙から

振込通知書に必要事項をご記入のうえ、郵便局・銀行の窓口でお振込み下さい。

## 継続寄附のご案内

クレジットカード決済、または口座振替により、継続寄附(毎月・年2回・年1回のいずれかの自動引き落とし)をご利用いただけます。お申込み後の内容変更や解約もインターネットで随時行えます。

お問い合わせ先

北大フロンティア基金事務室

〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目 北海道大学事務局内

TEL 011-706-2017 FAX 011-706-2092

E-mail [kikin@jimu.hokudai.ac.jp](mailto:kikin@jimu.hokudai.ac.jp) URL <https://www.hokudai.ac.jp/fund/>

# コロナ禍における北水同窓会の活動・同窓生への 激励の言葉

令和3年02月24日 北水同窓会本部幹事会委員の向井徹(昭61ギ)、高橋勇樹(平22海資)、富安信(平25海資)の3名で北水同窓会会長横山清氏(昭35エ、株式会社アークス社長)にWeb会議サービスZoomを用いたインタビューをさせていただきました。インタビューでは、コロナ禍での北水同窓会の活動についてのコメントと同窓生への激励のお言葉を頂きました。

## ■コロナ禍での北水同窓会の活動について

始めに次期総会について横山会長より「延期ということですか？」と質問があり、向井、高橋より「総会自体は延期し、決議は書面審査をしてもらおう形で実施します。また、9月実施予定のホームカミングデーにて100回記念総会に関する意見交換会を実施する予定です。」とお伝えしました。横山会長は延期に対しては残念そうな表情をされていたものの、ホームカミングデーでの意見交換会についてお聞きして大変嬉しそうに「よいね！」とコメントされていました。特に、「臨時でも何でも2年続けて空けるよりもやった方がいい。ほったらかしにはいけない。10人でも20人でもいいからやって、ああ行けばよかったなあと思ってもらえることが大切。」とコメントされました。また、自身が会長を務める団体主催の国内最大級の商談展示会、スーパーマーケット・トレードショーについて語られました。移動や来場者の制限がある中で今年も数万人の来場者があり、コロナ対策を万全にしてイベントを無事実施されたそうです。「大変だけど、その大変度を薄くして実施すればいい。」と小規模でも続けることの大切さを熱弁されました。

## ■同窓生への激励の言葉

激励のお言葉にあたって、横山会長は「今の社会には本当にいろんな分野に北大水産の伝統や結束がある。これから社会に進む学生や同窓生にも大きな選択肢や支援ができる先輩たちがいる。」と北大水産OB・OGの結束状況、働いている分野の厚みを語られました。また「元気な先輩たちが沢山いる。私も水産学部あつての今があり、60年間も働いている。水産魂というか、こういう精神は学生時代に培われた。」と横山会長自身も水産学部時代に大切なことを学んだと強調されました。「今の私はスーパーの業界で”食”を扱っている。”食”というのは、人

間の生命にかかわる仕事でとても広く研究対象を持つことになる。それこそ研究のために世界中を視察して、いろんなものを買ったり、食べたり、仕入れてみたり。極域以外は世界中行ったんじゃないかな。こういったことも若いころに学びのあった成果。海という果てしないフィールドに広く興味を持ったことが大きな糧になっている。」と語られました。チリに行かれたときには、現地では北大水産の同窓生に会われたそうで、そこでも同窓生の結びつきの強さを実感されたそうです。また「(学生時代は)頭に入るものは全部何でも入れた。いろんな失敗も先輩や同輩と共有することで学んでいった。」とご自身を振り返られました。今の学生や同窓生に対しては「関わってきた人を大切にして、学び続けていくことが大切。選んだ道を突き進んで精進すべきだ。就職は全く別になったとしてもね。北水魂を忘れるな！」とコメントされました。

結びに「私の孫も大学でオンライン授業を受けているのを聞いて、大学の様々なものが岐路に立っていることもわかっている。でも岐路に立って止まっていたはいけない。少しでも努力を続けて、同窓会の総会についても小規模でも続けて、参加すればよかったなあを増やすことが大切だ。」と繰り返し強調されました。

(年度末のお忙しい中ご対応頂きました、株式会社アークス横山社長、本間さまにはこの場を借りてお礼申し上げます。)



# コロナ禍を卒業する院生からのメッセージ

今年度は、新型コロナウイルスの影響で大きく社会状況が変わり、就職活動も研究活動も大変だった…そんな状況を乗り越えて卒業していく学生たちの声は、これから同じ道を歩む後輩やすでに社会で活躍している先輩たちの心に響くことでしょう。北水同窓会誌「親潮」316号では、卒業生たちのコロナ禍での就職活動や研究で苦労したこと、嬉しかったこと、そしてこれからの社会人生活や学生生活への決意を同窓生へのメッセージという形で募集しました。

資源生態学講座

## ◎生方 宏樹

生鮮げんき市場（大学近くのスーパー）のコロナ禍が値上げするという困難がありながらも、なんとか就活を終え、修士研究を形にすることができた。COVID-19の連日の報道では、経済と政治、そして科学が、互いに互いを振り回し、振り回されているような印象を受けた。春から地方独立行政法人の研究職に内定を受けた身としては、様々な場面でこのような振り回しに、多少なりとも巻き込まれることを覚悟している。



海洋計測学講座

## ◎梶 生人

今年の就職活動や研究が一番他年度と違ったのは、途中で状況が変わっていったところです。直前になってオンラインになったり、調査計画を見直す必要があったりなど予定通りにいかなかったことが多い年だと思います。そんな中で過ごした一年は不測の事態にいかに対応するかという点で大きな経験になったと感じています。まだまだコロナ禍は続きそうですが、こんな経験をすることもそうはありません。楽しんでいきましょう。



資源生産学教室（旧姓／漁場）

## ◎金谷彩友美

リモート面接への対応、就活期間が伸びたせいでタイトな計画になった修士研究など“臨機応変”さが問われた最後の函館生活でした。ただ、これから社会に出てもなお、自分の周りの世界が変化していくのは同じなのだろうと感じた年でもありました。コロナ禍での自分の1年を振り返りながら、これからも

臨機応変に、フィールドワークで鍛えられた逞しさを武器にしながら、臆せず色々なことに臨んでいきたいと思っています。



水産科学院 海洋応用生命科学科  
水産資源開発工学講座 食品工学研究室 修士2年

## ◎岸本 堯大

2020年はコロナによって登校禁止や採用人数の削減など、研究においても就職においても受難の年となりました。一方でインターネットの活用によって自宅にいながら授業や就活ができるようになった点は、コロナによる数少ない利点です。そこでこのコロナ下でなければ出来なかったこと、思いつかなかったことを探すことがこの一年を乗り切る心掛けと私は信じています。



海洋生物資源科学専攻 海洋共生学講座  
水産経営経済研究室 修士2年

## ◎菅原 空

私の修士二年間の生活は様々な方に支えられてきました。特に担当教官である宮澤晴彦特任教授には研究のために鳥取県までご足労頂き、また就職活動においては試験の過去問の提供や先輩の紹介、研究室で一人就職が決まっていな中、励ましの声をもらい頑張ることができ、感謝を申し上げます。

4月から水産物流関連の仕事に就きますが、コロナの流行は治っていません。コロナ対策を厳にして社会の一員として働きたいと思っています。

資源生物学講座 資源生態学領域 修士2年

### ◎鈴木 美奈

昨年2月末に2週間程タイに留学していました。日本で感染者が急増中だったため滞在途中で参加者に健診が行われ、極力宿泊所から出ない講義内容になりました。突然の予定変更は残念でしたが、行動制限がある中でもタイの文化や環境問題について聞くことができたり、現地の学生と交流できたりと得るものは多かったと感じています。今後学生たちが海外で貴重な経験を得られるよう、一刻も早く流行が収まることを願っています。



海洋生物資源科学専攻

### ◎雀部 庄平

今年度は新型コロナウイルスの影響で大変だったでしょう、と心配していただくことも多かったのですが、実は僕自身この変化を前向きに捉えていました。例えば、就職活動ではオンラインでのOB訪問や面接ができるようになったことで、地方にいながら首都圏の学生と同じ状況で活動することができました。今後は、在学中に得た学びを忘れずに、前向きに明るい気持ちで、激しさを増して変化する世の中を生き抜いていきたいと思っています。



北海道大学大学院水産科学院  
海洋生物資源科学専攻海洋共生学講座  
水産経営経済学研究室 修士2年

### ◎瀬川 大輔

みなさんは、新型コロナウイルスの影響を受けましたか？大なり小なり、何も変わらなかった人は居ないと思います。

大学生も、リモート授業や就職活動、アルバイトなどにおける様々な変化に直面しました。私自身は修士研究に当たり、調査ができないかもしれないという課題に直面したものの、宮澤晴彦教授の巧みな話術により取材の機会を勝ち取り、こうして修了を迎えられる運びとなりました。

幸いなことに、就職活動もコロナの影響が大きくなる前に終わられました。さらに、リモート通話の普及により、普段なら会えない距離にいる友人と話したり、宿泊施設を安く利用できたりと、良い面も無かったとは言えません。

これから社会に出ますが、これまでの常識が通用しないような変化も経験すると思います。しかし、北水生活6年間で培った、大海原の荒波を乗りこなす力を武器に、人生100年時代の航海を成功させたいと思います。



海洋生物資源科学専攻水産工学講座

### ◎高橋 元徳

コロナ禍で最も苦勞したことは研究活動でした。幸いにも就職活動は早く終わり、「研究に専念しよう。」と思った矢先に緊急事態宣言が発令され、計画していた実験や解析ができなくなりました。しかし、その分、家で論文を読む時間が多くなり、緊急事態宣言が解除された以降は効率的に実験や解析ができました。卒業後は、水産科学院で学んだことを活かして、エンジニアとして社会・産業の発展に貢献したいと思っています。



北海道大学大学院水産科学院  
海洋生物資源科学専攻 水産工学講座

### ◎留目 諒

コロナ禍での就職活動は緊急事態宣言の中、実家に籠り、孤独と戦いつつ、オンラインでは友人達と励まし合いながら進めました。研究活動も予定より遅れ、苦勞することも多かったです。後輩の皆さんも似たような状況に置かれるかもしれませんが、これも貴重な経験だと思って、前向きに精一杯立ち向かって行ってほしいです。また、友人を大切に支え合っていくことで良い思い出となるとと思います。応援しています！

海洋計測学講座 漁業計測学研究室

### ◎濱口 継悟

親元を離れ、北海道にやってきたのが6年前大学生活はあっという間で、サークルを引退し、就活が終わり気が付けば、卒業式を待つのみ。

出来るだけ悔いは残さないようにやってきたつもりだがまだまだ、やれることがあったように思う。

5年後の自分も、同じように新入社員時代を振り返って、思うところがあるのだろう。

コロナ禍に学生生活を過ごす後輩諸君へ  
どうせ悔やむなら、楽しまなければ損。精一杯、今を楽しめ。



水産食品科学分野

### ◎増富 大樹

コロナ禍での就職活動は、オンライン形式の選考活動となって直接顔を合わせない難しさや企業を知る機会が減った苦労があった一方で、企業へ赴く負担がないのは地方学生にとって良い点だと感じました。研究活動は、実験のために登校する時間と資料作成や文献を読む在宅の時間とのメリハリをつけることを意識して取り組みました。今年度のような環境に大きな変化があった経験を生かし、社会へ出てからも活躍していきたいです。



資源生物学講座

### ◎松井 菜月

最も緊張感が高かった昨年春頃、緊急事態宣言や自粛による在宅ワークは、予想以上に辛かったと記憶しています。就活の不透明度が増したうえに、論文との両立でストレス過多な時に、誰とも話せないような内省に偏った生活は、私にとっては心理的に不安定になりやすい環境でした。意識的に友達や家族と通話をするなどで乗り越えましたが、直接人に会わないだけで、こんなにしんどい気持ちになったのは想定外でした。

松石研究室

### ◎宗原 聖満

私は修士2年の5月から半年間タイへ留学、調査に行く計画を立てていたのですが、コロナの影響により出発の1か月ほど前にその計画が頓挫したことが最も苦労したことです。結局最後まで留学に行くことは叶わなかったのですが、そのような状況下でも、周りの多くの方々のお力もあり学術論文を投稿できるまで研究をやり切れたことが嬉しかったです。社会人になっても修士研究を通じて得た経験を活かし頑張っていきたいと思います。



海洋生物資源科学専攻 海洋共生学講座

### ◎若林 佑樹

コロナの影響もあり、大学主催の会社説明会には企業はほぼ不参加で社員からの情報を得られず、しかも対面での面接はほとんどなく、ズームなどを使ったWEB面接がメインになるという、今までの就活とは全く異なったものになり苦劳しました。もしうまくいかなかったも、とにかく諦めず頑張ってください。人生どうにかかります。

# 新刊案内

## 長谷川健二先生(昭49ギ)の近著紹介

北水同窓会幹事長／水産科学研究院・教授  
宮澤 晴彦(昭53ギ)

昨年11月に、水産経済研究分野における私の大先輩である長谷川健二先生が、『岐路に立つ魚類養殖業と小規模家族経営』という大著を上梓されました。70歳を超えてこのような大部の著作をものされたことに、まずは心から敬意を表したいと思います。

長谷川先生は昭和49年に北海道大学水産学部を卒業された後、本学大学院・農学研究科(農産物市場論研究室)に進み、農学博士号取得後、三重大学生物資源学部に奉職され、そこで長く教鞭をとられました。また、三重大学退官後はさらに福井県立大学海洋生物資源学部に移られ、平成28年の退職時に同大学から名誉教授の称号が付与されております。

この間、長谷川先生は水産物の流通・市場に関する研究に加え、西日本に広く展開する魚類養殖、中でもマダイ養殖を対象として、それを営む経営体の社会経済的存立条件に関する研究を幅広く展開されてきました。本書は、そうした長谷川先生による魚類養殖経営研究の集大成ともいべき内容を有しております。

魚類養殖、とりわけマダイ養殖は、北海道では馴染みがほとんどなく、本書についてもやや縁遠く感じられる方がいるかもしれません。しかし、本書が展開する主要な内容は、マダイ養殖固有の問題というより、極めて一般的、普遍的、かつ今日的なものとなっています。以下、この点について少し説明させていただきます。

本書はマダイ養殖を題材として、「小規模家族経営の存続条件を明らかにする」という、普

遍的テーマを追求しています。周知のように国連は2014年を「国際家族農業(漁業)年」と規定し、2019年からの10年間を「家族農業(漁業)の10年」とする決議を行っております。つまり、農漁業の小規模家族経営を守り発展させていくことは、食糧確保や環境保全といった種々の観点から、戦略的重要課題として国際的に位置づけられているのであり、本書はそれに対応



書名 『岐路に立つ魚類養殖業と小規模家族経営』  
著者 長谷川健二  
出版 北斗書房 2020.11  
ISBN978-4-89290-055-6  
4,000円(税別)

### 著者略歴

1948年	生まれ
1979年 3月	北海道大学大学院農学研究科農業経済学専攻(博士課程)単位取得退学
1982年12月	農学博士(北海道大学)
1985年 9月	三重大学水産学部助教授
1991年 4月	三重大学生物資源学部教授
2010年 4月	福井県立大学海洋生物資源学部教授
2016年 4月	福井県立大学名誉教授

する時宜にかなった内容を提示しているのです。

その一方で、わが国では非効率的な農漁業の小規模家族経営を淘汰し、大規模化・企業化の方向を目指すべきといった主張が、依然として声高に喧伝されています。これに対して著者は、「企業的経営、とりわけ大手の独占的企業経営が圧倒的多数を占める漁家漁業と比較して効率的かつ合理的であるとするのは日本漁業の現実を無視した暴論でしかない」と断

じ、批判的議論を漁業制度の理論的検討にまでさかのぼり、緻密に展開しています。

確かに本書は学術的で、“とっつきにくい”との印象を持たれるかもしれませんが、その内容はとても興味深く重要なものです。嘸めば嘸むほど濃厚な味わいがすることを保証します。是非ご一読を。

## プランクトンは海の語り部 ～変わりゆく極域～

山口 篤(平6ゾ)

本書は北大水産科学研究所の松野孝平先生が、大学院生時代から現在までの間、一貫して取り組んでいる動・植物プランクトンの生態研究の魅力を余すところなく伝えている良書である。図版も全部カラーで、表紙に使われているプランクトンの写真は、今年度の学部紹介パンフレットの表紙にも採用されている美麗なものである。

松野先生は四年生で北大プランクトン教室に所属してから、一貫して北極海の動・植物プランクトンの生態研究に取り組んでこられた。松野先生が大学院在学中に、日本の北極研究のプロジェクトのGRENEがちょうど開始した。松野先生は1991/92年におしよろ丸が採集した動物プランクトン試料と、2007/08年に自身が採集された動物プランクトン試料を比較研究し、北極海に太平洋産種が輸送されている量が、過去に比べて多くなっていること

や、北極海に輸送された太平洋産種が産卵を行い、再生産も可能なことを明らかにするなど、近年の日本の北極海の海洋生態系研究を代表する研究成果を次々に発表している。

本書は現在の極域プランクトン研究を世界的にリードする松野先生が、研究の魅力をとくに若い読者に向けて執筆したものである。本書は全7章で構成されている。

1章は「北極海とプランクトン」として、北極海におけるプランクトン研究の歴史から、現在進行しつつある気候変動に起因する北極海の水氷融解を述べ、そのような環境変動が生態系に与える影響を評価する上で、世代時間の短いプランクトンは、その変化を速やかに表す、まさにタイトルにある「海の語り部」としての役割を持っていることを、初心者にも分かり易い、平易な筆致で紹介している。

2章と3章では「プランクトンを研究すると

は」また「観測現場で体験してきたこと」として、研究テーマの決め方や研究の進め方について、これまた微に入り細に入り、まさにかゆいところに手が届く感じで詳述されている。また単独で調査航海に乗船をして、様々な体験をしながら、洋上で研究を進めるコツなどを写真を交えて紹介している。

4章では「北極海で起こっていること」として、おしよ丸や海外の砕氷船などの乗船により、松野先生がこれまでに明らかにしてきた研究成果を、大変分かり易く解説紹介している。北極海の変化というのは、まさに現在、待たなして進行しつつある変化であり、その変化を現場観測により次々に明らかにしてきた経験を、追体験できるようなこの箇所は、本書のハイライトであり、大変ワクワクする箇所である。

5章では「タスマニアでの研究生活」として、北極海の対比海域として南極海の研究を行うために、海外の研究機関にて留学生活をする際の準備から、向こうの生活で感じたこと、文化の違いや人間性、タスマニアの動物や食、そ

して観光まで様々に書かれている、若いこれからの学生にぜひ読んで貰いたい部分である。そして「現場」を大切にする松野先生はまた、タスマニアから南極海での調査航海に出るのである。

6章と7章では「南極海の研究を始めて」と「いま取り組んでいる研究」として、その南極海での調査研究の結果と、その後オーストラリアと日本の共同研究を立ち上げていることを紹介している。さらに後継の北極研究プロジェクトのArCSやArCS IIにおいて、グリーンランド氷河末端の動・植物プランクトン研究など、まさに地球環境の変化の最前線において、その変化を真っ先に受ける、語り部である小さな声なき生物「プランクトン」の代弁者として、何が起こっているのか、そして将来的にどうなるのかを述べる、正に今後の研究の方向性を示している章である。

本書は、一貫して「現場」においてプランクトンを採集し、研究と解析を行ってきた松野先生にして初めて明らかに出来て記しうる、「研究のエッセンス」や「プランクトン研究の魅力」がたっぷりと詰まった、正に新鮮でFruitfulな一冊である。本シリーズの読者対象である、とくに若い読者の方に（もちろんシニアの方にも）ご一読を薦めるものである。



## 北水同窓会大阪府支部総会報告

大橋 人司(昭56ギ)



### 35名の出席者一覧

上田稔(昭45化)、久保田幸一(昭45化)、入江和彦(昭45ギ)、西川一義(昭46ヅ)、島田好彦(昭47ギ)、田中文夫(昭50食)、室井智子(昭50食)、大村泰治(昭51食)、玉置純(昭51漁)、中西圭太(昭化)、北川和郎(昭54ギ)、松本たけし(昭54ギ)、金子哲郎(昭54食)、石田浩平(昭54食)、佐々木雅人(昭56化)、大橋人司(昭56ギ)、佐藤信光(昭57化)、青木孝之(昭59ギ)、楠山仁志(昭59ギ)、中田邦彦(昭61食)、小関宏彦(昭61理)、村田泰克(昭62ギ)、吉田幸治(平元ギ)、川邊一郎(平3)、小田哲也(平4ギ)、若林真由(平5修食)、堀越光晴(平8ギ)、辰巳昌弘(平9食)、藤原匠逸(平13セ)、尾上律子(平14資)、中村拓真(平15シ)、櫻井遥平(平19セ)、松川広樹(平26修増)、新社会人/服部雄地(令2海洋資源)、齋藤諒(令2修増)

二年に一度の大阪府支部総会を、11月21日(土)に開催いたしました。新型コロナウイルスの感染拡大が進む中ということで、感染防止対策として、三蜜にならないよう会場は、高さのある部屋で、空調も十分に、四人用卓を一人で使用、100人以上収容可能なところに35人の参加、食事もバイキングにせず、一人ずつのお弁当、また、受付にて、参加者全員のマスク着用の確認、手指のアルコール消毒、検温の実施を

しての開催となりました。

定刻通り15時より、佐々木支部長による開会挨拶のあと、玉置副支部長の司会により、前回総会以降に亡くなられた同窓生への黙祷に始まり、事務局長大橋による事業・会計報告、上田監査役による監査報告、事務局長大橋による事業計画・予算案・役員改選の説明後、出席者による議案承認と続き、無事に総会は終了となりました。続いて第二部の講演会となりま

したが、今年は大東水産学部卒業後、弁護士へと転身された、中西圭太氏(昭54年卒)、北川和郎氏(昭54年卒)お二人による「弁護士よもやま話」を約90分にさせていただき、お二人の異色の経歴や弁護士の方々周辺の現在の状況など興味深く聞くことができました。その後、石田副支部長の司会にて懇親会に移り、支部長挨拶、入江顧問による乾杯挨拶にて始まりました。総会は新卒歓迎会も兼ねているので、参加していただいた服部雄地君(海洋資源)、齋藤諒君(修増)の自己紹介と挨拶で盛り上がりその後、外れ無しの抽選会が行われ、大村氏に提供していただいた健康補助食品「とうさガール」、金子氏に手配していただいた、きのとやのクッキー「札幌農学校」、若林氏に提供していただいた「グリコ菓子詰め合わせ」、支部長寄

付のウィスキーが各自の手に渡り各家庭への恰好のお土産となったことと思います。島田氏の締め挨拶は、総会寸前の11月12日に急逝された、当支部顧問の岡本洋一氏(昭48年卒)を偲ぶ話もあり一同改めて冥福をお祈りいたしました。

最後に、恒例の水産放浪歌、都ぞ弥生の斉唱となりましたが、この時も全員マスク着用、各自距離をとって歌い、無事閉会となりました。二年後の支部総会の時には、コロナ肺炎も収まりみんなで肩を組んで、水産放浪歌、都ぞ弥生を大きな声で歌えることを願って止みません。



## □学位取得者

### 【令和2年9月取得】

---

閻 乃箏	無鰐魚の音響散乱特性に関する研究
李 雯	Studies on the biological activities of mottled skate ( <i>Raja pulchra</i> ) by-products and their possible industrial applications (カスベ(エイ)加工由来副生物の生物活性およびその産業応用に関する研究)
王 迪	Studies on Histamine Production Properties and Control of <i>Morganella psychrotolerans</i> ( <i>Morganella psychrotolerans</i> のヒスタミン産生特性と制御に関する研究)

---

### 【令和2年12月取得】

---

高 偉峰	キアンコウ <i>Lophius litulon</i> の初期生活史に関する研究
Eko Susanto	STUDY ON SEAWEED CHLOROPHYLLS AND LIPIDS : DISTRIBUTION, BIOAVAILABILITY, AND FUNCTIONALITY (海藻のクロロフィルと脂質に関する研究 : 分布, 生体利用および機能性)

---

## □会員異動

### ○令和2年6月1日付 採用・異動等

---

山下 俊介	特任助教 採用
-------	---------

---

### ○令和2年9月30日付 退職等

---

三上 浩司	准教授 自己都合による退職
-------	---------------

---

### ○令和2年10月1日付 採用・異動等

---

閻 乃箏	特任助教 採用
------	---------

---

### ○令和3年3月31日付 退職等

---

安井 肇	特任教授 任期満了による退職
宮澤 晴彦	特任教授 任期満了による退職
平澤 享	准教授 自己都合による退職
高木 省吾	准教授 自己都合による退職

---

会員死亡通知

三上 祐明	(昭15セ)	令和2年10月15日	ご家族様より
志賀政次郎	(昭18ギ)	令和2年9月5日	ご家族様より
亀岡 暢次	(昭20セ)	令和3年1月5日	ご家族様より
吉原 三隆	(昭23エ)	令和元年12月6日	ご家族様より
高橋 要一	(昭23ゾ)	令和3年1月14日	ご家族様より
船矢 昭三	(昭23ゾ)	平成29年3月8日	ご家族様より
磯西 昭	(昭24ギ)	令和2年10月9日	ご家族様より
三田 健二	(昭24ギ)	令和2年6月22日	ご家族様より
今野 宗郎	(昭24エ)	令和2年11月4日	ご家族様より
伴 満	(昭24セ)	平成30年1月29日	ご家族様より
八木 義之	(昭24セ)	令和2年4月2日	ご家族様より
八谷 一郎	(昭25教ギ)	平成27年3月30日	ご家族様より
浅見 務	(昭25セ)	令和2年9月29日	ご家族様より
武尾 善蔵	(昭25セ)	令和3年2月2日	青森支部様より
鈴木 愛子	(昭25ゾ)	令和2年8月29日	志賀 直信(昭44ゾ)様より
松野 賢治	(昭28ギ)	令和3年1月25日	ご家族様より
鷲尾 愈	(昭29ギ)	令和2年7月16日	ご家族様より
服部保次郎	(昭31エ)	令和2年7月4日	ご家族様より
吉田 守	(昭32ギ)	令和2年12月9日	今井 輝(昭32ゾ)様より
中沢 洋	(昭33エ)	令和2年12月3日	梶原 潔(昭33ギ)様より
西牟田力雄	(昭33エ)	令和2年6月24日	ご家族様より
若山 善弘	(昭33エ)	令和2年12月12日	梶原 潔(昭33ギ)様より
成田 一憲	(昭35セ)	令和元年11月2日	ご家族様より
和田 厚	(昭36エ)	令和2年7月12日	飯塚 光江(昭36エ)様より
伊藤 勝夫	(昭37ギ)	令和2年6月23日	ご家族様より
田中 館栄喜	(昭37ギ)	令和2年4月30日	ご家族様より
澤井 佳保	(昭37エ)	令和3年2月22日	平野 泰司(昭37エ)様より
花村 剋己	(昭38エ)	令和2年9月2日	大谷 研一(昭39ギ)様より
桑原 茂暢	(昭39ギ)	令和元年6月11日	ご家族様より
小沢 康雄	(昭39セ)	令和2年6月10日	ご家族様より
松野 靖雄	(昭41ギ)	平成30年11月17日	ご家族様より
林 征一	(昭41セ)	令和2年12月18日	兼崎 英勝(昭41セ)様より
奥原 大典	(昭42セ)	令和2年3月24日	ご家族様より
本吉 友征	(昭43化)	令和2年6月19日	ご家族様より
山崎 忠茂	(昭43化)	令和2年8月8日	ご家族様より
佐々木政則	(昭43食)	令和2年12月10日	ご家族様より
大井 享	(昭45ギ)	令和2年8月19日	ご家族様より
海老名名保	(昭46食)	令和2年6月3日	ご家族様より
蔵本 正樹	(昭48化)	令和2年2月16日	小熊 章夫(昭48化)様より
村田 義則	(昭51ギ)	令和2年7月28日	ご家族様より
伊藤 雅一	(昭52ゾ)	令和2年1月5日	河村 治夫(昭53ゾ)様より
今野 幸広	(昭55ギ)	平成28年2月2日	河村 治夫(昭53ゾ)様より
藤本 一	(昭55ギ)	令和2年7月4日	ご家族様より
富塚 叙	(昭55ゾ)	令和2年3月23日	ご家族様より
小達 恒夫	(昭58ゾ)	令和3年2月5日	福地 光男(昭45ゾ)様より
山本 充	(昭59ギ)	令和2年10月29日	ご家族様より
山田 英明	(昭59ゾ)	令和2年9月30日	ご家族様より
星野 真吾	(平23シ)	令和2年12月18日	山本 篤(平22資機)様より

## 親 | 潮 | 投 | 稿 | 規 | 定

### 【寄稿、支部・会員便り、会員の受賞、ご案内など】

一つの投稿につきA4版・1ページ(2000字程度)までとする。この制限以上の長文あるいは連載を希望される場合は2号分までとする。写真を入れる場合、その分の文字数が減る。また写真はホームページに掲載することもできる。原稿は、同窓会宛に封書で郵送するか、同窓会のメール宛に送付することとする。

### 【同窓生の声】

各種活動や出版物の告知・紹介、本誌への感想など。個人的な連絡は対象とせず、1記事につき300字以内。同窓会あてのメール(hokusuialumni@gmail.com)にて受け付けます。写真は入れられません。

## [ 編集後記 ]

今年度後期から編集担当幹事を拝命しております富安と申します。若輩者かつ初めての同窓会幹事で、至らない部分もあるかと存じますがよろしくお願ひ致します。

今号では、新型コロナウイルスの影響による次期総会の延期と決議案の取り扱いについて案内をしています。総会が二度続けて実施できていない現状となっておりますが、今夏実施予定のホームカミングデーで臨時的に100回記念総会に関する意見交換会を実施予定です。また昨今の社会情勢での同窓会の活動について、北水同窓会会長 横山清氏とのインタビュー記事も掲載しておりますので、ぜひご確認下さい。

今号の特集として、平成31年1月に北海道大学大学院水産科学研究院と連携協定を結んだ八雲町の水産試験研究施設を利用した研究調査について寄稿を頂いています。海洋深層水を用いたダルスなどの海藻、ウニ、近海魚の飼育など研究の最前線をぜひご覧ください。

また今春は、北大水産の同窓生がコロナ禍の社会情勢の中を卒業していく初めての春となりました。こうした情勢だからこそ、卒業する同窓生の声や足跡を掲載する企画を設けました。紙面の都合上わずかな数に限らせて頂きましたが、少しでも彼ら彼女らの苦労や今後の決意に耳を傾けて頂けたらと思います。誠に勝手ながら今号の表紙写真は、卒業生の門出を祝ってキャンパス内で過去に撮影された桜の写真を掲載しました。学位記授与式も少人数での開催となったこともあり、少しでも卒業式の気分が出れば幸いです。(編集後記を執筆している現在函館キャンパスはまだ雪ですが…)

次年度第1号(通算317号)の原稿の締め切りは、2021年7月10日(必着)とさせていただきます。寄稿につきましては、郵送もしくは電子メール(hokusuialumni@gmail.com)にて受け付けております。その他、支部報告や同期会報告、著者の紹介など、多くの原稿をご投稿下さいますようお願い申し上げます。なお、親潮では同窓の方々の交流形態として「同窓生の声」の広場を設けております。また、本誌に対するご意見やご感想なども募集しております。詳しくは投稿規定をご参照ください。

また、支部総会や同期会の開催時の写真や開催案内を北水同窓会のホームページ(<http://Hokusui.net/>)にて掲載しておりますので、是非ご覧ください。

編集幹事/富安 信(平25海資)

令和3年3月発行

北 水 同 窓 会

〒041-8611 函館市港町3-1-1

TEL & FAX.0138-42-3681

E-mail:hokusuialumni@gmail.com



# 株式会社 釣八

URL <http://www.tsuru8.co.jp/>

よく間違えられますが、「つるはち」って読みます。

社長の名前が「つるみ」だから。

世界中の海から、イカ、赤魚、サバ等なじみのある水産物を、

いま、求められるかたちにして、お届けできるように奮闘努力刻苦勉強

代表取締役社長 釣見 泰之(昭和59年 漁業学科卒)

【水産学部卒業社員】 土井 倫行(昭和60年卒) 奥田 和人(昭和60年卒)

## 本社

〒104-0042 東京都中央区入船3-8-7 ザ・ロワイヤルビル2F

TEL03-3297-8883 FAX03-3297-8885

八戸支店 〒031-0082 青森県八戸市常海町13-2 サンデュエル内丸1203 TEL 0178-71-3488

銚子支店 〒288-0051 千葉県銚子市飯沼町186-93 八木友ビル2F TEL 0479-25-8822

大阪支店 〒550-0015 大阪府大阪市西区南堀江3-14-12 イイダビル2-2A TEL 06-6532-8886

福岡支店 〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前3-18-28 フクオカビル7F TEL 092-401-8828

## 関連会社

築地: (株)釣十(マグロ仲卸) 中国: 大連釣八(水産物加工)

アメリカ・ロスアンゼルス: フィッシングエイト タイ・バンコク: 釣八タイランド

## 人工魚礁による水産資源の保護・増殖に貢献します



礼文北部 エゾメバル・ガヤモドキ



苫小牧 ミズダコ



熊石 マコンプ

## 海洋土木株式会社

〒142-0043 東京都品川区二葉2-11-5

代表取締役 木實谷浩史 (54ゾ)

取締役副社長 石井直志 (49ゾ)

専務取締役 幡宮輝雄 (57ギ)

青森営業所長 山口伸治 (49化)

北陸営業所長 魚住昭文 (52ギ)

札幌支店部長 日和久典 (平6ギ)

## 玉館竹田

## 食卓に函館の味を



## 株式会社 竹田食品

代表取締役 竹田寿広

本社工場 函館市浅野町3番10号  
TEL (0138) 43-1110 (代) FAX (0138) 43-1113

札幌営業所 札幌市中央区北13条西19丁目1番1号  
(水産保冷配送センター3F)  
TEL (011) 623-0990 FAX (011) 644-9910

竹田食品販売(株) 東京都中央区築地7丁目5番3号(紀文第一ビル2階)  
TEL (03) 6226-6820 FAX (03) 3545-2135

竹田食品販売(株) 大阪府大阪市淀川区西中島4丁目3番5号  
大阪営業所 (NLCセントラルビル5階)  
TEL (06) 6307-5311 FAX (06) 6307-5358



交通事故、労働災害、医療過誤、倒産、債務整理、サラ金破産  
個人再生、未払い残業代請求、離婚、相続、遺言、成年後見

相談料は全て無料です

# 吉原法律事務所

札幌弁護士会 弁護士 吉原美智世  
(昭和48年増殖学科卒業)

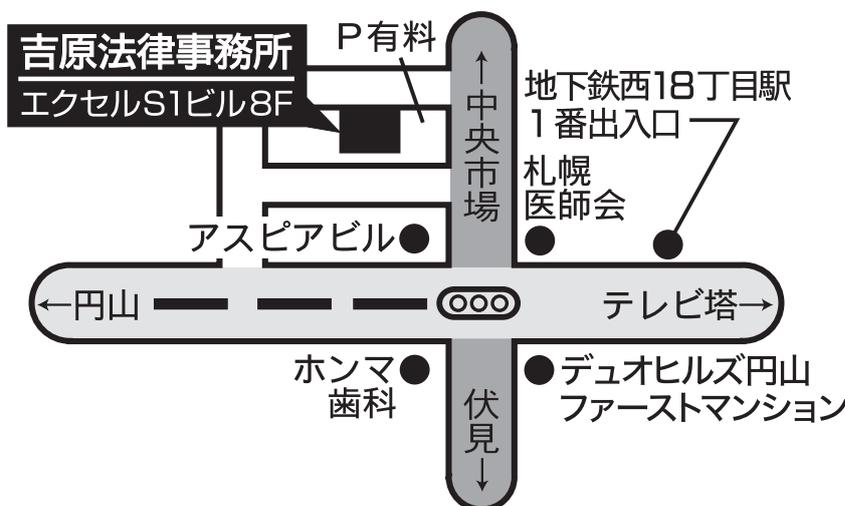
お気軽にお問い合わせ下さい

**TEL 622-7963 FAX 622-8414**

札幌市中央区大通西20丁目2-20(エクセルS1ビル8F)

(交通) 東西線西18丁目地下鉄1番出口

(E-mail) [lawyer@yoshihara-lawoffice.jp](mailto:lawyer@yoshihara-lawoffice.jp)



営業時間においでになれない方はご相談下さい。